

<平成 23 年度地域教育ネットワーク会議議事要旨(西都・児湯地区)>

- 1 日 時：平成 23 年 8 月 24 日 (水) 15:00～17:00
- 2 会 場：高鍋町中央公民館 作業室
- 3 参加者：各種関係団体等代表 19 名 事務局 5 名
- 4 内 容

(1) 開会行事

- ① あいさつ
- ② 日程説明

(2) 事業説明

- ① 平成 23 年度生涯学習関連主要施策について

(3) 協 議

- ① 自己紹介と日頃の活動について
- ② 子どもの 1 日の生活を支援するために、関係団体・企業等の相互連携はどうあればよいか。

(4) 閉会行事

5 協議のまとめ

参加者一人一人から、日頃行っている子どもの教育支援活動について、簡単に話していただき、他の団の活動状況を知っていただきました。その後、活動上の問題点や課題、取組の成果や今後の教育支援在り方についての協議を行い、以下のような御意見が出されました。

(1) 活動上の問題点や課題等について

- 新しい事業(学校支援)導入時の問題点
 - ・リーダー、中心となるものがない
 - ・既存の事業との違いによるトラブル
 - ・学校、地域、役所との連携不足
- ボランティアとしての役割
 - ・教師がボランティアの活用の仕方がわからない
 - ・学校とボランティアの連携不足
- コーディネーターの役割
 - ・悩んでいる
 - ・ボランティアの活用の仕方
 - ・ボランティアの一本釣りになっている
(ボランティア側に投げかけてニーズに対応)
 - ・研修会へ推薦する人の選任の難しさ
 - ・ボランティアに登録しなくてもよいという人が多い
 - ・学校側からの要請が少ない

(2) 今後の取組等について

- ・安全からのスタートすることができる
- ・教育課からの手紙等の送付により
人材バンクの活用を図る
- ・ボランティアの主体性を高める
- ・協議会等による話し合いの充実を図る
- ・ボランティアと子どもたちのコミュニケーション
により絆の深まりが期待できる
- ・先生たちとの距離を縮める必要がある
- ・学校・地域、両方のニーズを大切にする
- ・学校を拠点として世代間交流を行う
- ・打ち合わせが重要性である
(教師との会話を増やす必要がある)
- ・ボランティアの横のつながりを作る
必要がある
- ・学校、地域双方向の動きを作る必要がある
- ・コーディネーターの研修会を実施する
(小さなエリアでの実施)
- ・地域ボランティアが学校のみならず各種団
体等の企画に参加する
(各種団体と地域ボランティアの連携)
- ・関係同士の結びつきを深める
- ・教師に学校支援の啓発を行う必要がある
- ・公民館と学校とのつながりを再構築する

